

●教育再生実行会議への提言●

世界から尊敬される国民を育てる

志教育

～慈しみの心 と 和の精神～

特定非営利活動法人日本ライフキャリア協会

理事長 出口 光

2013・9現在

教育再生会議への提言

「志」教育の導入

・人づくりは、国づくり

国民一人ひとりが、国家を構成する一員として、自分自身の「志」を明確にもち、特性を生かして役割を果たし、チームとして国家の目標を実現していく。

その国民一人ひとりの「志」を、教育の現場で、発達段階に合わせて、早期より探究する環境を与えることで、一人ひとりの中の、社会を構成する一員としての存在意義が明確になる。

そのために、教育活動全般を通して、一人ひとりの「志」探究のための環境づくりと仕組みを盛り込むことが望まれる。

・実現のために、『志』教育』を教科の一環として位置付ける

現行の、小学校「生活科」、中学校「総合的学習の時間」、高校の「進路指導」では、キャリア教育として、職業についての学習（職業調べに始まり、適性検査、職場体験、OBや専門家による講話など）が行われている。

キャリア教育の一環として『志』教育』を教科の一環として位置付けることで、全国で「志」教育が推進される。更に、行事、授業などの教育活動全般にわたり、一人ひとりの「志」探究の視点を盛り込むことで、探究の場が拡大し、深化することが期待できる。

さらに、教育基本法では、知育、徳育、体育の大切さが盛り込まれている。それら三育を子供たちが取り組む意欲は、内発的動機である志を自覚することで初めて高められる。

・『志』教育』の最新のテクノロジー「個性認識学『四魂の窓』」

「個性認識学『四魂の窓』」は、2007年以来、これまで1万2千人以上の人々の「志」を引き出してきた。その開発の過程及び活動を以下に紹介する。

特定非営利活動法人日本ライフキャリア協会

理事長：出口 光

1955年1月14日生まれ。哲学博士。慶應義塾大学文学部（実験心理学専攻）卒業、米国カンザス大学大学院人間発達学部にて、応用行動分析学を学び博士号を取得。大学で4年間教鞭を取り、人間の科学的理解を社会に役立てるという志のもと実業界へ。東証一部(株)タカキュー代表取締役役に就任。現在、メキキの会会長、(株)メキキ代表取締役社長。裏千家淡交会代議員・東京第六西支部副支部長。柔道3段。

大本教の出口王仁三郎は曾祖父にあたる。

著書「キャリア開発実践帳」「天命の暗号」「人の心が手に取るように見えてくる」「四魂診断」「聴き方革命」他

所轄庁： 東京都

所在地： 渋谷区渋谷一丁目17番8号

代表者： 出口光

設立日： 2002年1月25日

定款に記載された活動内容：

この法人は、家庭、ビジネス、教育、医療、健康、福祉など様々な人生の分野において、ライフキャリアに関するカウンセリング技能の教育と普及を行う。さらにそれらの技能の評価と検定を行う。この活動を通じて、多くの家庭や職場を、カウンセリングマインドを持ったコミュニティに転換することで、社会に貢献することを目的とする。

志を引き出すテクノロジー「個性認識学『四魂の窓』」

個性認識学「四魂の窓」とは

目的

教育基本法にある知育・徳育・体育を推進するためには、それらを向上させようとする子供たちの内発的な動機が必要である。その内発的な動機こそが志である。志を持って初めて、それを実現するために、知識、道徳、健康を高める必要が出てくる。

志は内発的なものであるがゆえに、外から与えられるものではなく、子ども自身から引き出されることが大切である。個性認識学の主要なテクノロジー「四魂の窓」は、たった二問で子どもの志の大まかな領域を引き出すことができる。

また、お互いの志を知り合うことで、生徒、親、教師の間の「絆」を促進し、イジメやウツの子供の数を減らすことも目標とすることができる。

教育方法の特徴

上記の目的を達成するための3つの教育方法の特徴がある。

1. 志を外から与えるのではなく、自身の中から引き出す喜びを体験することができる。
たった二問で、子どもが望む人生の方向性が明らかになり、自ら見出した喜びがある。
2. 子ども同士がペアになって互いに教え合うことで学習効果が最大となる。
学ぶには教えることが最良の方法であり、生徒同士が教え合うことの喜びと「絆」ができあがる。
3. 両親や友人を診断してあげるように促すことによって日常で実践できる。
知っているだけでなく実行することで子どもは自らの環境を変えることを学び、自己の責任で人生を切り開く体験をもつことができる。また、日常で実践することで「絆の連鎖」が起こり、ウツやイジメを減らすことができる。

理論的背景

古くから日本に伝わる心の構造「一霊四魂」の実用的な翻訳と、応用技術の開発を行うことでテクノロジー化したものが個性認識学「四魂の窓」である。私たちは、一霊四魂を基にしたテストバッテリーを作成し、一霊四魂の5つの因子で人格を捉えられることを因子分析の手法により統計的に実証した（安生ら、2012 参照）。

性格特性論の分野では五因子論（通称ビッグファイブ）が有力と言われているが、その五因子論の五因子と、一霊四魂の五因子は、それぞれ類似している。また、この5因子は孟子の四端と四徳（仁、義、礼、智）とも対応する。性格特性論とは、特性の強弱によって人格を記述し理解しようとする方法である。よって、五因子論も四魂の窓も性格特性論として分類できる。五因子論と四魂の窓のそれぞれ5つの因子の比較は、以下の通りである。

特性	五因子論	一霊四魂
1	誠実性	省（直霊）
2	外向性	勇
3	親和性	親
4	感情的安定性	愛
5	知性	智

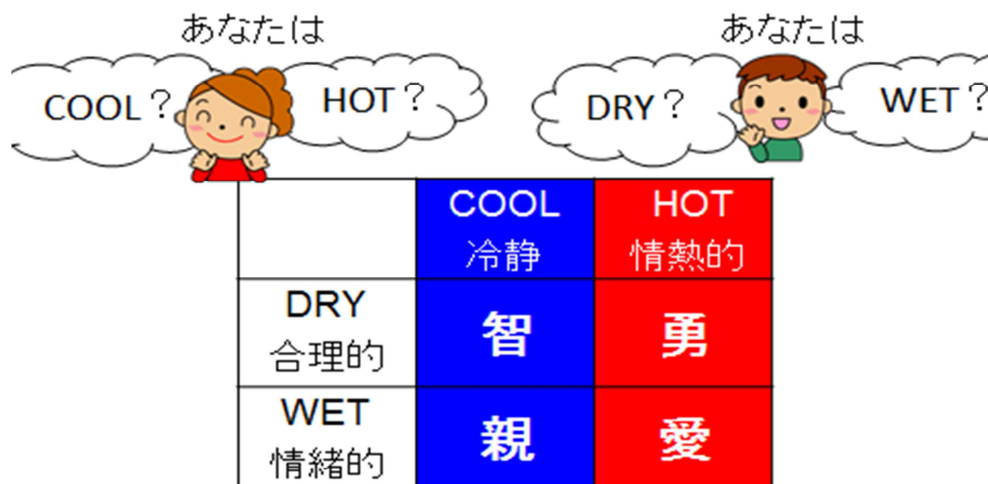
五因子論の「誠実性」は、一霊四魂の「省」に対応する。「省」とは省みる機能であり、自分自身が正義の観点から正しいことを行っているか否かを判断する。五因子論の「外向性」は、積極的に活動する機能「勇」に対応する。五因子論の「親和性」は、多くの人と親しみを持って関わる「親」と機能と対応する。五因子論の「感情的安定性」は、感情が豊かな「愛」に対応する。五因子論の「知性」は、「智」に対応する。

アメリカ、カナダ、ブラジル、アルゼンチン、アフリカ、中国、韓国、そして日本など世界各国で、五因子論の妥当性が実証されており、ゆえに人格は五因子で説明できることの所以である。この五因子が、日本古来の心の構造「一霊四魂」のそれらと類似している。わずか23年前の1990年に5因子論は米国の Goldberg 博士によって発表されたが、日本では1300年以上前に人間の基本的な5因子を捉えていた。つまり同じ5因子に基づいて開発された四魂の窓は、日本のみならず、世界の人びとに対して使用可能となることを示している。

その類似する2つの理論が、大きく異なるのはそれぞれの存在する目的である。五因子論の五因子は遺伝的に変化しないものと扱い、人格の診断を主目的とする。一方、一霊四魂は、それぞれの特性はたましいを顕し、ゆえにそれら特性は尊く、そのたましいは切磋琢磨することで成長する、という性格発達論の立場にある。

※詳細は、「人の心が手に取るように見えてくる」（出口光著 中経出版 2007）を参照。

四魂の窓のテクノロジー



出口光「人の心が手にとるように見える」中経出版
日本ライフキャリア協会

個性認識学「四魂の窓」のテクノロジーには、大きく次のような特徴がある。

- ・人間の不安定な「心」ではなく、その奥にある不動の「魂」に焦点を当てている
- ・人の性格は、磨かれ、成長していくと考えている
- ・相手に直接会って感じて診断することができる
- ・自分と相手の見方、聴き方、考え方を瞬時に掴むことができる
- ・人が抱いている究極の思いや、志・天命に迫ることができる
- ・悩みや嘆きがどこからくるのかが見える
- ・互いのあいだにある心の垣根を取り払うことにより、人生や仕事において、互いに尊敬し合い、つながり合うことができるようになる

数ある特徴の基礎になっているのが「心」と「魂」を分けるという考え方である。「心」は揺れ動く分野、「魂」は不動で、その人の本質とも言える分野、という分け方である。誰にでも、揺れ動く「心」と、決して揺れ動くことのない「魂」があるということである。「心」はその時々で刻々と変化する感情であるのに対し、「魂」は場に影響を受けることのない、その人が抱く究極の思い・究極の願いと解釈することができる。「スポーツマン魂」「経営者魂」「職人魂」など、強く不動のものをあらかず時に使われてきた。

「魂」だけに焦点を当てていれば、その人が人生に求めるものが常に見えていて、安定感があり、行動にも一貫性がある。「心」だけに焦点を当てていると、その場の状況でコロコロ変化するもので、不安定で安心感がもてず、行動にも一貫性がない。しかし、その「心」の揺れは、実は「魂」に由来するものだということがわかると、人が抱く悩みや嘆きにさえも、その人が人生に求めている究極の願いと言えるものが見えてくる。

個性認識学「四魂の窓」では、魂の働きを4つの機能であらわしている。「勇」「親」「愛」「智」である。

一人の人の中に、4つの機能が全てあるが、どれが強く出ているのか、更に4つがどのように組み合わせられて

いるのか、その組み合わせの妙によって、性格が違ってくる。

診断方法で始めに開発されたのは 100 問テストで、所要時間が約 30 分であった。次に 18 問テストが開発され、現在は、2 問だけの質問で診断できるまでになった。2 問で診断できるようになったことで、自分のみならず、相手と一緒にいるとき、相手の顔を見ながら、あるいは相手の話に耳を傾けながら診断するということが可能になったのである。

次の 2 つの質問に答えることで、「勇」「親」「愛」「智」のどれが優勢かを診断することができる。

- ・「あなたは情熱的ですか、それとも冷静ですか」
- ・「あなたは合理的ですか、それとも情緒的ですか」

2 つの質問の答えの組み合わせで、その人の特徴がわかる。

- ・情熱的で合理的な人は「勇」ベース
- ・冷静で情緒的な人は「親」ベース
- ・情熱的で情緒的な人は「愛」ベース
- ・冷静で合理的な人は「智」ベース

それぞれの特徴をあげていく。ここでは、大きく分けて、「代表的な特徴」・「人の話を聴く時」・「人からの批判」・「心の声」・「魂の思い」の 5 点について触れていく。

「勇」ベースの人は、行動力がある。「何事もやってみなければわからない」「まずはやってみよう」「とにかく行動することが大切だ」と考えている。常に夢や目標をもち、それを達成しようという強い意思がある。

人の話を聴く時は、「自分にできるか」「これは使えるか」「この人はやる気があるか」を考えながら聴いている。

自分の目的を達成するためにまっしぐらに行動し、目的以外の物事に対する興味が薄いので、周囲の人から「人の話を聞かない」「説明しない」と批判されることがある。

人生を「達成すべきもの」と捉えているがゆえに、「とても無理だ」「できるわけがない」という心の声も同時に出てくる。また、人から意見されると「邪魔された」と思う傾向がある。

「勇」の魂が大きくなると、大義や志に生きようという思いが強くなる。大義のためには、自分を捨てて礎になることも辞さないという程の潔さが出てくる。命をかけられるほどのことに出会いたいという強い思いを秘めているのである。

「親」ベースの人は、自分が所属するグループや組織の「平和」や「調和」を第一に考え、そのために役に立つことを願っている。常に安心で安全な場を求め、そのために自分が役に立てることは何かを考えている。

人の話を聴く時は、「自分や自分のグループに関係があるのか」「仲間の利益になるのか」「自分の役割は何か」を考えながら聴いている。

その場全体がうまくいくことが大切で、そこにいる人のどんな意見にも「なるほど、そういう意見もあるんですね」と耳を傾ける。どんな意見にも頷き、自己表現をあまりしないため、人から「八方美人」「何を考えているのかよくわからない」などと批判されることがある。

自分自身のことよりも周りを優先させ、その場の平和や調和を図るために、自分の役割が何かを常に考えてい

るからこそ、「役に立っていないのではないか」という心の不安をもっている。また、波風が立たないよう、常に気配りをしているので、場を乱されて皆が迷惑をかけられていると感じるとき、「空気を読めよ」「場をわきまえろ」「皆に迷惑だ」という心の声が出てくる。

「親」の魂が大きくなると、大和のために行動するようになる。小さなグループの和に留まらず、多くの人と繋がり、大きな和を紡ぐための行動を起こすようになる。

「愛」ベースの人は、相手との一対一の深い関係に価値を置き、思いやりや優しさに満ちた関係を求めている。「相手を幸せにしたい」「何かをしてあげたい」という思いをもっている。

人の話を聴く時は、「この人のために何をしてあげられるだろうか」「自分は必要とされているだろうか」と聴いている。

話しかける時に、「忙しいところ悪いんだけど、ごめんね、大丈夫？」などと、相手の気持ちを思いやるがゆえに前置きから会話をスタートさせることが多くある。内容を伝えるときには、相手に気を遣って遠回りな表現をすることも多く、人から「話が長い」「暑苦しい」と批判されることがある。相手のためにと思っていたことが「余計なお世話」と思われることもある。

人の気持ちに敏感で、愛し愛される関係を築くことを大切にしているがゆえに、「嫌われるのではないか」「必要とされないのではないか」という不安をもっている。そして、自分の感情や思いやりを理解してくれない人に対しては、「人として許せない」「同じ空気を吸いたくない」という心の声が出てくる。

「愛」の魂が大きくなると、「余計なお世話」や見返りの愛情を求めることがなくなり、無償の愛が出てくる。多くの人を大きな愛で包み込み、育み、温かさや安心感、居心地の良さを与え、ものごとを創造するようになる。

「智」ベースの人は、興味や好奇心を大切にし、真理を探究することに価値をおいている。常に優れた情報を探し、ものごとを観察・分析し、工夫している。

人の話を聴く時は、「本物かどうか」「おもしろいかどうか」「わかるかどうか」「なぜそうなるのか」と、自分の基準に照らしながら聴いている。

興味探究のための情報交換を大事にしていて、感情交流は希薄である。良い情報をもたない人や、才能がないと判断する人にはあまり興味を示さず、事実をストレートに表現するので、人から「冷たい」「批判的」と思われることがある。

基本的に、ものごとが自分の基準に達しているかどうかで評価する傾向があり、自分自身をもその基準で評価するので「自分には能力が足りない」「馬鹿だと思われるのではないか」という心の不安をもっている。また、論理的でない話や、説明をしないで指示する人などに対して、「頭悪い」「わかってない」という心の声が出てくる。

「智」の魂が大きくなると、世の中を便利に合理的にするために真理を探究し、優れた情報や技術を広めたいという思いが強くなる。人を認めることができるようになり、世の中の進歩に貢献するために行動するようになる。

「四魂の窓」を通すと、互いの魂の思い、つまりはその人の人生における究極の願いとも言えるものが、手に取るように見えてくる。そして、人の数だけあるそれぞれの天命・使命を見つけ出すための大きなヒントを得ることができるのである。

教育現場での主な実績

これまでに、個性認識学「四魂の窓」を受講した人数（講演、研修、講座を含む）
約1万2千名（2007年から2013年9月まで）

●栃木県那須塩原市立黒磯中学校 生徒・保護者指導

資料1

テーマ： 教育現場における個性認識学「四魂の窓」の実践

開催期間： 2008年4月1日～2010年3月31日

場 所： 栃木県那須塩原市立黒磯中学校

対象者： 担任した生徒及び保護者

教科の授業で担当した生徒

講 師： 斎藤悦子教諭

人 数： 約250名

期 間： 2年間

●宮城県牡鹿中学校における志教育の実践 講演とワークショップ

テーマ： 志のを見つけ方

開催日： 2012年3月9日

場 所： 宮城県石巻市立牡鹿中学校

主催者： 宮城県石巻市立牡鹿中学校

対象者： 全校生徒

講 師： 出口光

人 数： 約60名

時 間： 60分

●宮城県牡鹿地区小中学校4校における志教育の実践講座

資料2

テーマ： 志を見つけよう

開催日時 2012年11月13日

場 所： 宮城県石巻市立牡鹿中学校

主催者： 宮城県石巻市教育委員会

対象者： 大原小学校・鮎川小学校・寄磯小学校・牡鹿中学校の全児童・生徒

宮城県教育委員会上記各学校校長他職員視察

講 師： 中学生対象 出口光、斎藤悦子 小学生対象 かがみ知加子、新田義治

人 数： 中学生約60名、小学3年生～6年生の児童約50名

時 間： 2時間

※2013年4月13日に牡鹿中学校保護者教師会から、感謝状を頂く

●山梨県富士吉田市富士学苑中学校 保護者指導講演

テーマ： 個性認識学「四魂の窓」
開催日： 2010年10月16日
場 所： 山梨県富士吉田市富士学苑中学校
主催者： 富士学苑中学校
講 師： 斎藤悦子
対象者： 保護者
人 数： 30名
時 間： 2時間30分

●志教育と個性認識学「四魂の窓」生徒指導実践講座

テーマ： 個性認識学「四魂の窓」
開催日： 2012年9月28日
場 所： 国立オリンピック記念青少年総合センター
主催者： 一般社団法人日本青少年育成協会
対象者： 都道府県教育委員会教育相談担当指導主事、都道府県教育センター教育相談担当研究主事、公立学校教職員、私立学校・民間教育機関教職員
講 師： 斎藤悦子
人 数： 約30名
時 間： 3時間

●志教育と個性認識学「四魂の窓」生徒指導実践講座

テーマ： 個性認識学「四魂の窓」
開催日： 2013年7月5日
場 所： 国立オリンピック記念青少年総合センター
主催者： 一般社団法人日本青少年育成協会
対象者： 都道府県教育委員会教育相談担当指導主事、都道府県教育センター教育相談担当研究主事、公立学校教職員、私立学校・民間教育機関教職員
講 師： 斎藤悦子
人 数： 約30名
時 間： 3時間

●慶應義塾大学 横山松三郎記念講座

テーマ： 新しい認識テクノロジー「四魂の窓」
開催日： 2010年3月13日（土）
場 所： 慶應義塾大学三田キャンパス
主 催： 慶應義塾大学心理学教室
対象者： 大学教員、大学院生、OB
人 数： 約80名
時 間： 90分

●NHK ラジオ第二放送公開講座

テーマ： 四魂の窓を使った「子供の創造力を育てる」
開催日： 2011年12月11日・17日
場 所： NHK文化センター
主 催： NHK 2文化番組
対象者： 民間大衆
講師 かがみ知加子
時間 1時間

●小学校PTAのための子供の志教育

テーマ： 個性を伸ばす 個性認識学講座「四魂の窓」
開催日： 2013年9月7日
場 所： 福島県須賀川市立西袋第一小学校
主 催： 福島県須賀川市立西袋第一小学校
対象者： P T A
人 数： 30名
講 師： 新田義治
時 間： 2時間

●多摩美術大学美術学部教職課程「情報工学演習」

テーマ： コンピュータを利用して自分の中にある志の情報を捉えキャリアデザインする
開催期間： 2005年4月1日～現在に至る
場 所： 多摩美術大学
対象者： 多摩美術大学にて教職課程を履修する全学生
講 師： 安生祐治
人 数： 年間約160名（累計1280名）
期 間： 半期の講義

斎藤悦子プロフィール

1966年10月2日生まれ

1990年から20年間公立中学校に勤務

「個性認識学『四魂の窓』」に出会い、勘と経験則が頼りの教育活動に裏付けと指針が得られたと確信教育に関わる人々に「個性認識学『四魂の窓』」を広める活動をするため、2010年退職
現在、NPO 日本ライフキャリア協会認定講師

個性認識学「四魂の窓」を用いた教育活動

41歳の時、ある研修会で、個性認識学の「四魂の窓」のテクノロジーに出会った。この「四魂の窓」は出口光博士が、古来から日本にあった心の構造「一霊四魂」という考え方を基礎に、米国の大学院に留学していたときに学んだ心理学と哲学を使って、科学的なテクノロジーにしたものである。帰国後プロジェクトチームを立ち上げ、長い年月をかけて実験を繰り返し、開発された。

この「四魂の窓」は、仕事、人間関係、生き方、天命の探究など、人生そのものに優れた力を発揮するということに、私は深く感銘を受けた。まずは、「四魂の窓」と出会って、私自身と周囲の人々にどのような違いがあらわれたのかを記したい。

それまで、現場で自分なりに手応えとして掴んできたことはあった。「このタイプの人悩んでいる時、原因は、たいていはこういうことにあるようだ」「このタイプの人自信を失くしているとき、こういう働きかけによって励ますことができる場合が多いようだ」というように、年々、勘と経験則が功を奏するようになってきていた。

個性認識学「四魂の窓」に出会ったとき、まるで、それまで使用してきた言語に文法があてはめられたかのように、驚くほどじっくりくると感じた。更に、確固たる裏付けと指針が得られたと思った。その上、今まで手にしたことのない、奥の深い、優れたテクノロジーだと実感した。

早速、はやる気持ちを抑えながら、現場で「四魂の窓」を通して生徒・同僚・保護者を見てみると、次々と目に飛び込んでくる現象が、どれひとつを取っても納得がいくものであった。一人ひとりが抱く思いはどこからくるのか、悩みや嘆きがどこからくるのか、人間関係に求めるものがなぜ違うのかが、手に取るように見えてきた。探究すればするほど新たな気づきがあり、どこまでも奥深く、“人”のすばらしさをこれでもかと感じさせられた。

日々の小さな出来事の中にさえ、“人”のすばらしさを感じるものが次々とあらわれた。

部活動の練習でけがをして通院している生徒が、朝、病院に行ってから登校するということが何度かあった。

通院するようになってからは、だいたい2時間目の途中に学校に到着した。私の中では、学校に着いたらすぐに教室に入るのが普通だと思っていた。その生徒も当然そうするものと思っていたが、その生徒は、次の休み時間まで保健室にいさせてほしいと言うのである。そして2時間目終了のチャイムが鳴ってみんなが動き出した頃にすっと教室に入っていくわけである。

「四魂の窓」を知らなければ、その生徒の考えをすぐに理解することは難しかったであろうと思う。その生徒は、自分が授業の途中で教室に入って、授業が中断したり、みんなの集中が途切れたりして場が乱れ、迷惑をかけることだけは避けたいと思っていたのである。実際に保健室で待機することをいつも許可できるかどうかは別として、「四魂の窓」を知ってからは、その人を「いつも周りの人の事を考え、気配りすることができるすばらしい人」と、ますます尊敬することができるようになった。

同じように、生徒一人ひとりの授業中の態度にも、その人が抱く究極の思いが見えてきた。そして、生徒一人ひとりとの関係も更に良好になっていき、生徒同士もお互いの良さが自然に見えるようになり、ますます認め合うようになっていった。お互いの信頼関係も深くなり、必要な時には意見をぶつけ合い、本気の間接関係を構築できるようになっていったのである。

生徒のみならず、保護者との関わりにも大きな違いがあらわれた。

保護者の方達と接する機会のひとつに個人懇談がある。この個人懇談においても、多くの保護者に「四魂の窓」は優れた力を発揮した。

ある時の個人懇談で、担任している女の子のお母さんからこのような相談を受けた。

「うちの子は、小さい頃から、とにかくぐずぐずしているのです。自分の気持ちや考えをはっきり言わないし、友達からの誘いを断ることもできないのです。授業参観でも、自分からすすんで発表しているところを見たことがありません。何をやるにも1番になろうという意欲がないのです。私は、娘を見ているとイライラします。その上、娘は親に対して無言の反抗をして、去年は、突然家出しておばあちゃんの家に行っていたのです。私が何度むかえに行っても、1か月以上帰って来なかったのです。もう、私は娘のことが理解できません！」

個性認識学「四魂の窓」を通すと、このお母さんが子どもに何を求めているのかが見えてきた。お母さんは、自分の子どもに、夢や目標をもち、粘り強く果敢に努力を続け、結果を出してほしいと願っていたのである。更に、友達に合わせてばかりいるのではなく、自分の考えを堂々と主張して、リーダーとしてみんなを力強く引っばって活躍してほしいと思っていたのだ。しかし、自分の娘がその理想とはほど遠いところにいると感じ、それを訴え続けてきたのであった。

一方、娘さんの方は、幼いころからお母さんに叱られ続けてきて、自分はダメな人間だと思っていたのである。しかし、小学校の高学年になった頃から、自分の気遣いや気配りに対して理解を示さないお母さんに対して、もう我慢の限界だと思うようになり、思いつめた末、家出という大胆な行動に出たのであった。

「四魂の窓」から見ると、互いに人生で求めるものが違って、更に、対極の特徴をもつ親子であるこ

とがわかった。

そこで、懇談の時は、お母さんの気持ちを共に味わった上で、娘さんの学校での様子を伝えた。

「〇〇さんは、いつもみんながうまくいくように、自分が何をすればいいかを考えながら生活しています。みんながうまくいくのなら、自分のことは我慢して人のために役に立とうとしてくれます。リーダーが活躍できるように支えています。気配り名人です。欠席している人の机に配布物が置いてあったら、何も言わずにそっとまとめて机の中に入れておいてくれます。一人ぼっちの人がいたらそっと声をかけてくれます。〇〇さんがクラスにいてくれるお蔭でみんなが助けられています。私もとてもありがたいと思っています。すばらしいお子さんです。ぜひ、常に人知れず気配りしていることを口に出して褒めてあげてください」

お母さんは「は一、そうですかー」と言って帰られた。翌朝、その子は「昨日は、家で母に褒められました」と、静かに、そしてうれしそうに報告してきた。

このような体験を重ね、「四魂の窓」は、相手を瞬時に理解することができるテクノロジーであり、優れたツールでもあると実感した私は、一人でも多くの人々に、教育現場での体験を体系化して発信しようと、仕事から帰っては夜な夜な取り組み始めた。

まずは、実践しながら集めたデータをまとめ始めた。日々の出来事から得られた、生徒や同僚、保護者、それぞれの特徴に関する掘みを振り返っては記録した。また、学級活動や学校行事において、一人ひとりが生き生きと取り組み、深い気づきを得られる活動を考えた。課題は次々と出てきて、夢中で準備しているうちに、気づくと夜が明けていることもあった。

学校では、休み時間や放課後にも、時間を見つけては生徒や同僚と語り合い、探究し合った。自分が担任していないクラスからも、「もっと学びたい」と訪ねてくる人が増え、お互いに、日々の生活の中で、新しい発見の連続であった。

「この若さの人々にもこれほどの違いが出るこの個性認識学『四魂の窓』を、一人でも多くの人に伝えたい」「人の成長に関わる人々に伝えたい」という気持ちが次第に大きくなっていった。それと並行して、早朝に家を出て深夜に帰宅してからの探究活動に、体力的な有限さを実感するようになり、体にも限界を示すサインが出ていた。そして悩みに悩んだ末、退職することを決心した。

退職する時は、当時担当していた生徒達を裏切るようでとても申し訳なく、とにかく後ろ髪をひかれ葛藤した。しかし、その生徒達の子ども達、そしてまたその子ども達、そのまた子ども達のことを考えた。将来、「一人ひとりの個性がそのまま認められ、かけがえのないすばらしい存在として尊重され、年齢・性別・立場に関係なく、互いに尊敬し合いながらつながり、共に志に生きる世の中のために」このテクノロジーを一人でも多くの人に伝えたい。どんなに微力でも、とにかく何もせずにはいられない、という心境であった。

離任式に、数十人の生徒が、「離任式ではきっと泣いて話せなくなるから」と手紙を書いてきてくれた。多く

の手紙に「自分の天命を探し続けます」「自分の方向性が見えてきました」「本当の自分で生きていきます」「この夢を実現させます」などと、それぞれの思いが書かれていて、それぞれに自分が深いところで求めていることに真摯に向き合っていることを知り、感動した。

退職すると、驚いたことに、休日に毎週のように生徒達がグループ単位で私の家に遊びに来ては、「四魂の窓」の勉強会が繰り広げられるようになった。学校から私の家までは、電車でも片道1時間ほどかかる距離だったが、探究を望む生徒達は、早朝の電車に乗って熱心に通ってくる気合いの入れようであった。時には親御さんが高速道路で送りむかえをしてくれることもあり、親御さんの子どもを思う気持ちにも、頭が下がった。

気心知れた仲間たちと共に次々と訪れる生徒達は、とにかく熱心に自分と周りの人々の本質について深く知りたがり、互いの世界観を見ながら語り合った。ちょっと休憩を挟もうと提案すると、「先生、お手洗いにいきたくなったら勝手に行きます。時間がもったいないのでとにかく続けてください」と言う人もいるほどの入れ込みようであった。

その生徒達に違いが出たことは容易に確認できた。深いところに気づきを得た人の変化を目の当たりにして、私自身もますます確信を深めた。

●生徒の特徴と事例

同じ授業を受けていても、人によって聴き方が違っている。具体的には、目的、心構え、見方、聴き方、参加の仕方などに違いが現れているのである。

授業での特徴を見ていく。

「勇」が強い人は、

- ・授業の内容がテストに出るか
- ・実際に使えるか
- ・自分の目標達成に役立つか

という点を特に重視している。

「できる、使える」と判断すると、積極的に取り組み、発言する。

誰にでもできるような簡単な問題にはあまり燃えないが、ちょっと難しいチャレンジ問題や、周りが苦戦しているような問題に燃える傾向がある。

そして、手を挙げるときは、できるだけ目立つようにアピールする。

友達と比べて、自分が勝っているか負けているかも気になる。

ある日の授業で挙手を求めたとき、多くの生徒が発表したがって手を挙げた。

「勇」が強くいつも積極的なA君は、手の形をチョキにしてあげていた。

「どうしてチョキなの？」と尋ねると、「みんな、パーで挙げているから、チョキにしました！手を挙げるときも勝ちたいんです！」と言った。

「勇」が強い人はこういう発想もするのか、と思わず感心していると、さらに「先生すごいですね！僕、この挙げ方、小学校の時から時々やっていたんですけど、どの先生も気づかなかったんです。これに気付いたの、先生が初めてですよ！」と嬉しそうに言った。

そして彼は、「先生、じゃあ僕が発表してもいいですよね！？」とアピールすることも忘れず、目的を達成したのであった。

「親」が強い人は、

- ・授業がスムーズに進んでいるか
- ・場の空気を乱していないか
- ・教師と生徒の関係は大丈夫か

ということが特に気になっている。

教師からの質問の答えがわかっても、波風が立つことを避けるため、すぐに目立つように手を挙げることはない。

周りの様子をそれとなく見て、自分だけが目立つことのないよう気をつけながら手を挙げる。

また、誰も手を挙げないような時、逆に場の空気が白けることを避けるため、静かにさりげなくきょろきょろしながら、そっと手を挙げたりする。

「親」の人は、穏やかで平和で安全な場を作るために常に気を配っているのである。

また、公平で平等であることを大事にしている。

一人ぼっちでいる人が気になり、さり気なく声をかけたりする。

特に仲の良い友達ではなくても、欠席が何日か続いている人がいると、担任にそっと様子を聴いてきたりするのも「親」が強い子に多く見られる。

責任感が強く、自分が担当する係の仕事などをしっかりとこなす子が多いのも特徴である。

ある日の学級日誌の、ある授業の反省欄に次のようなことが書かれていた。

「少しうるさくなつて先生に迷惑をかけてしまったと思う。」

それを讀んだ私は、教科担当の教師に授業の様子を尋ねてみた。

すると、担当教師は、「今日もみんな元気で、発表に燃えていましたよ～！先生のクラスは、全員が手を挙げるのです。傍観者がいないところがいいですね！」と言うのである。

そして、気になることや困ったことはないと言うのである。

翌日、日記を書いた生徒にそっと尋ねてみた。「気になったことを勇気を出して書いてくれてありがとうね。あなたはどんなことが気になった？」

すると、その子は「みんなが手を挙げていたのですが、自分が指名されなかったときに、声を出して悔しがることがいたのです。あれはよくないと思ったのです。」と言った。

声を出して悔しがることが、場の空気を乱し、先生にも失礼だと感じたのである。

確かにその子は、普段の生活を見ていると、みんながうまくいくのなら自分のことは我慢する典型的な「親」の生徒であった。

「いつもみんなのことを考えてくれてありがとう。あなたが心配りしてくれるお蔭でみんながうまくいっている。あなたがこのクラスにいてくれて私も嬉しい。」と伝えた上で、本人の承諾を得て、帰りの会で、クラス全体にその授業がどうだったのかを尋ねてみた。

すると、多くの生徒が異口同音に「みんながんばりました！」という内容のことを言うのである。

それもお互いに目を合わせながら頷き、誇らしげに言うのであった。

そこで、まずはそのがんばりを称賛した上で、みんなの中には、先生に逆に迷惑をかけてしまったのではないかと心配になった人もいたということを具体的に伝えた。

「人それぞれ、受け止め方や感じ方がこうも違っているのだね。そして、みんながそれぞれにクラスが良くなることを願っているのだよね。」と投げかけ、感じ方の違いをしみじみ味わってみた。

すると「勇」の強い男子の一人が、

「俺の存在そのものがストレスになってない？大丈夫？」と言い出し、みんなで大爆笑。

いつも場の空気を読んでとっさにおもしろいことを口走る「親」の男子が、「お前、今頃気づいたのかよ～！気づくの遅いよ！」とすかさず言い、更に大爆笑。

日記を書いた生徒も、静かに、でもうれしそうに笑っているのを見届け、それぞれに違っていることが、クラスの成長に必要なのだと再確認し、大爆笑の余韻の中でさようならのあいさつをして一日が終わった。

「愛」が強い人は、

- ・教師のことが好きか嫌い（気が合うか合わないか）
- ・好きな教師のために今何ができるか
- ・自分が必要とされているか

が特に気になる。

気持ちをよくわかってくれて、生徒1人ひとりを大事にする先生が好きである。

好きな先生の授業を受けるのが楽しみで、その教科はやる気が出る。先生を喜ばせたいし、先生にも認められたいと思っているのである。また、内容についてはともかく、うなずいたり挙手したり、一生懸命取り組むことで気持ちを表現しようとする。中には、誰も手を挙げる人がいなくて先生が困っていると感じると、答えがよくわからなくても先生を助きたい一心で手を挙げて、ピエロになることすらいとわない生徒もいる。

クラスメイトの中につらい思いをしている人がいるのに誰も助けていない時、率先して手伝ったり助けたりするのも特徴である。

ある年、おとなに対して激しく拒否反応を示す男子が入学してきた。授業中、暴言を繰り返したり妨害したりするので、教室は1日中ピリピリと緊迫した空気が漂っていた。学校の外でも社会のルールに反する行為を繰り返していた。

彼の四魂は何なのか、冷静に観察してみると、実は「愛」が強いのではないかと感じた。本心では愛し愛されたいという強い願いをもちながらも、本人がそれを実感することが少なく、拒絶感を繰り返し味わいながらここまできたのかもしれないと思った。

早速、英語の授業で彼のクラスに行く時、授業の始めに毎時間行うペアワーク用のプリントの25の英文全てに読みがなをふった。いつもの彼なら、手渡したプリントは目の前で丸めて捨てる。捨てられてもいいように同じものを何枚も作った。コピーではなく、全て手書きした。そして、一斉にワークがスタートして賑やかになった時、まぎれるようにそっと彼に近づいて、耳元で明るい口調で囁いた。

「今日ね、あなたのために特別にプリントを用意してきたの。一緒にやろう！」

すると彼は「え、いいよ別に」と投げやりに答えたのである。

その手応えに私は「じゃあ今日は1番ね」と言って先に読んだ。すると彼はけだるそうなポーズでリピートしたのだ。私は彼の両肩を抱えたり背中をなでたりしながら「うん。ばっちり！すごい！発音もいい！今日のノルマは達成！次の時間は2番にいきましょうね！」と言った後、「あ～、今日いい日だ！うれしいな～！」と大きな独

り言を言いながら彼のところを離れた。

次の時間も同じようにプリントを用意し、「今日は2番までやってみよう」と言うと、同じように1番と2番をリピートしたのだ。けだるそうに。

次の時間は3番。

そして次の時間、私がプリントを持って近づくと、彼は「わかったから、大丈夫だから。4番までだろー？できるから！」と言って自分から読んだのである。そこで私は、「ん！さすが！」と言い、まかせた。

その次の時間、信頼しきっている素振りでプリントだけを渡して彼から離れていた。しばらくすると、ペアの女子が突然「先生！○君が全部読みました！」と叫んだ。

すると、周りの生徒達が拍手をし始め、次第に教室中にクラスメイトの拍手が響いた。本当はみんな一緒に良くなっていきたいと本能的に思っているのだと感じた拍手でもあった。

彼は次第に授業を妨害することもなくなり、廊下ですれ違おうと話しかけてきたり、次の年の担任を逆指名してくれるなど、その変化に、私自身も大きな喜びを感じ、相手のどこに関わるかで大きな違いがでることを改めて実感したのである。

「智」が強い人は、

- ・授業の内容がわかるかどうか
- ・自分の興味・関心に合う内容か
- ・教師の説明の仕方はどうか

という点を重視する。

探究心が強く、工夫上手な人が多く、授業には冷静な態度で取り組む傾向がある。

特に興味がないことに関しては率先して手を挙げることはないが、自分が興味を持っていることや得意分野に関しては、進んで説明する。

アイディアを出し合う授業や話し合いなどで意見が出なくなった時に、「他に考えがある人？他のやり方があると思う人？」という呼びかけに対して反応する人が多く、みんなとは別の切り口で考え、貢献する。

ある男子のことである。彼は入学式の日、初対面の担任の私のところにつかつかと寄ってきて、「あの一、僕勉強わかりませんから。小学校でも褒められたことありませんから。放課後残されて漢字練習しても結局覚えられませんでしたから。僕、才能ありませんから。あらかじめ言っておきますけど」と言った。そして授業中はまるであきらめたかのような態度でいる。彼は実は「智」が強く、自分には能力がないと嘆いていたのである。

ある日、トイレ掃除を担当している彼を見に行くと、真剣にタイル掃除をしていた。

そこで帰りの会で「今日の掃除の時間に感心したことがある。○君は、タイルとタイルのあいだの目地の汚れを、たわしやチリトリの角を使って、いろいろと工夫して掃除していた。あの工夫はすばらしい。○君は工夫がうまい人だね」と、あえて冷静な態度で真剣に称賛した。彼は「え～、別に普通ですけど～」と淡々と言った。

次の日の掃除の時間、“マイたわし”と“マイゴム手袋”を持ってきて掃除している彼がいた。数日後、タイルの目地は見事に美しくよみがえっていた。

しばらくすると、技術担当の教員から報告が来た。「最近、授業に対する態度が変わってきて、小さなことに丁寧な工夫を凝らすようになってきたので、今日は褒めました」

彼の“小さな工夫”は他の教科でも見られるようになり、工夫の効果が少しずつあらわれてくると、彼は休み時間に真剣に高校案内を見つめるようになっていた。

「個性認識学『四魂の窓』」を使うと、さまざまな場面にきっかけとチャンスを見出すことができるようになった。相手に寄り添い、心の奥底にある究極の思いと共にいることで、見えてくるものがあるのだと掴んだ。

生徒の個性をそのまま受け取り、承認し、尊重し、究極の思いと共について見守り続ける親や教師が増えることで、志に生き、つながり合いながら世の中を担う人々が増えると確信すると共に、「個性認識学『四魂の窓』」のテクノロジーは、それを実現するための優れたツールであることも体験を通して掴んだ。

宮城県牡鹿地区小中学校 4 校における志教育の実践講座 資料 2

宮城県は小中高一貫した志教育を行っている唯一の県であり、2012年3月9日卒業記念講演で、宮城県石巻市立牡鹿中学校でNPO 日本ライフキャリア協会理事長の出口光が「志をみつけよう」という演題で全校生徒に対して、講演兼ワークショップを行った。

講演兼ワークショップでは、「四魂の窓」と「志動詞」のテクノロジーを使い、生徒たちの日常を見て自分自身の中から、人生を貫く行動傾向を動詞で導き出し、生徒自身で志を一文にするという教育を行った。生徒たちは自らの中に志があることを知り、熱心に参加した。

生徒自身から導き出す導入方法の評判がよく、さらに同年11月13日、宮城県石巻市教育委員会の依頼を受け、石巻市立牡鹿中学校、大原小学校、鮎川小学校、寄磯小学校合同の志教育大会で、日本ライフキャリア協会の理事らによって、小中学校の児童・生徒を対象に「志の見つけ方」の講演兼ワークショップを行った。

「従来の志教育は、歴史上の偉人のことを話すことが中心だったが、生徒にとっては雲の上の人たちであり、身近に感じるができなかったが、生徒が自ら志を見つける志教育の重要性を痛感した」（牡鹿中学校高橋校長）。

平成25年4月13日 牡鹿中学校保護者教師会から感謝状を受け取る

主な企業現場での実績

●出口光講演

ロータリークラブ、日本青年会議所、日本経営合理化協会、日本秘書協会、ソニーアカデミー、倫理法人会、ライオンズクラブ、船井オープンワールドなど多数。

●NHK文化センター個性認識学講座

開催期間 2008年4月1日～2012年3月31日

場所 NHK文化センター

対象者 公募一般参加者

講師 出口光・かがみ知加子・斎藤悦子・森あゆみ・高井信二（個性認識学認定講師による）

人数 約400名

期間 4年間

●ひまわり生命 池袋支社 代理店営業セミナー

テーマ：営業数字のアップ「個性認識学」

開催日： 2011年2月

場 所： 池袋サンシャインひまわり生命オフィス

対象者： 代理店オーナー

講 師： かがみ知加子

人 数： 約50名

●日本ソフロロジー学会（産婦人科胎教指導～志指導）

テーマ：繋がる胎教

開催日： 2012年11月

場 所： 赤坂都市センターホテル

対象者： 産婦人科医師・助産師

講 師： かがみ知加子

人 数： 約230名

●岩手医科大学付属病院

テーマ：新しい認識テクノロジー「四魂の窓」

開催日： 2012年11月

場 所： 岩手医科大学付属病院

対象者： 産婦人科医師・助産師

講 師： 新田義治

人 数： 200名

●オーディジャパン販売株式会社

テーマ： 新しい認識テクノロジー「四魂の窓」

開催日： 2012年1月16日

場 所： アウディジャパン販売本社

対象者： 取締役・幹部

講 師： 出口光

人 数： 8人

学会発表

- ・ 出口光・榎本和生・安生祐治・廣岡徹 (2006). 聴き方に関する考察：パーソナリティ理論のカウンセリングへの応用に関する一考察. 日本パーソナリティ心理学会第15回年次大会発表論文集, 182-183. ポスター発表
- ・ 出口光・安生祐治・廣岡徹 (2007). 「四魂の窓」によるキャリア発達 — 日本古来の心の構造に基づく特性論の応用 —. 日本キャリア教育学会第29回年次大会発表論文集, 31-34. 公開シンポジウム.
- ・ 安生祐治・高井信二・吉田光延・馬庭美晴・新田義治 (2011). 「四魂の窓」によるキャリア形成支援—個性を掴むことで見えてくるもの—. 日本キャリア教育学会第33回年次大会発表論文集, 36-40. 公開シンポジウム.
- ・ 安生祐治 (2011). パソコンの授業にキャリア形成の基礎を組み込む —「四魂の窓」の概念を活用して—. 日本キャリア教育学会第33回年次大会発表論文集, 512-513. 口頭発表.
- ・ 安生祐治・榎本和生・出口光 (2012). 一霊四魂に基づく質問紙テストの尺度の作成 — 個々の特性を人生に生かすために —. 日本キャリア教育学会第34回年次大会発表論文集, 180-181. 口頭発表.

出版書籍 (出版年代順)

- ・ 天命の暗号 出口光 著／中経出版 2006年 現在9刷り (中国語、韓国語でも出版)
- ・ 人の心が手に取るように見えてくる 出口光著／中経出版 2007年 現在13刷り (中国語、韓国語でも出版)
- ・ 聴き方革命 出口光著／徳間書店
- ・ 四魂診断 出口光著／中経出版
- ・ 成功本はムチャを言う!? 新田義治著/青春新書 2008年
- ・ キャリア開発実践帳 出口光・安生祐治著／メタ・ブレーン 2013年
- ・ 一霊四魂と和の精神 [Amazon Kindle版] 出口光 著 サムライタイムズ社 2013年
- ・ うちの子ってどうしてこうなの？の悩みが消える！ かがみ知加子著／現代書林 2013年